

Contents

巻頭言 「声を上げる」政策に協力を
特集1 鹿中看 今村節子顧問
ナイチンゲール記章受章
特集2 第3回慈愛会学会学術集会
NEWS 膠原病・リウマチ内科標榜開始
訪看わたりどりオープン
慈愛会の達人たち
在宅医療リレーエッセー/人事情報

慈愛会フィロソフィ バージョンアップへ プロジェクトスタート

—2024年 慈愛会創設90周年に向けて—



毎月 Zoom 会議で協議を進めているプロジェクトメンバーの皆さんと
プロジェクト事務局を務める教育開発センターの皆さん

「声を上げる」政策に協力を

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



我々医療スタッフは、真面目に目の前の患者さんに医療提供を行ってれば、黙っていても診療報酬はしっかりと付いてくるものと信じていました。昭和 36 (1961) 年に導入された日本の国民皆保険の医療制度は、日本の高度経済成長もバックアップしてくれたお蔭で、比較的患者さんと医療提供者双方にやさしい制度だったと言えます。それがバブル崩壊後、雲行きが怪しくなり、今回の新型コロナ禍を経て、突然一気に豪雨になりそうな気配です。

具体的な話をすると、世の中は既にデフレからインフレ状態に変わり、様々なモノの値段が上がると同時に、今まで抑えられていた給与が軒並み上昇してきました。普通の会社は人件費を上げるのに商品の定価を上げることで人件費の上昇を吸収できます。今までは、定価を上げられない、むしろ、デフレで定価を安くしないと売れない現象が生じたために長い間給与を上げることが出来ず、かつ、非正規雇用人材の比率を上げることで凌いできました。それが、物価高騰に人材不足も重なり、一気に定価を上げることが可能となり、その結果、一部を人件費すなわち給与の上昇に充てることが可能となったのです。

一方、国民皆保険制度の下で医療提供を行っている我々は勝手に定価を上げることは出来ません。診療報酬は全て制度で決められており、決められた価格以上の請求を行えば不正請求となり保険医療機関が取り消されます。すなわち、病院が潰れることを意味します。今までに物価の上昇以上に診療報酬改定が行われた時期もありましたが遠い過去の話となりました。このまま医療現場が声を上げなければ診療報酬改定で我々の給料の原資となる診療報酬が上がることは絶対にありません。この制度が導入された当初は闘争の時代で、診療報酬獲得のために我々医療サイドが声を上げて報酬増額を勝ち取ってきました。今またその時代に戻ったのです。

当法人では、以上の事情を踏まえて我々の職場を守るための活動を強化する方向に舵を切ります。一言で言えば「声を上げる」政策に切り替えます。そのために **3つの政策**に取り組んでいきます。具体的な戦略・戦術は皆さんと情報共有しながら立てていきます。

商品価値を高める＝医療サービスの質を上げる（今までも行っている取り組み強化）

商品のPRを行う＝・当法人の医療サービスを鹿児島県民に広くお伝えする取り組み

・個々のサービスが、サービスを必要とする方に届く取り組み

商品定価を上げる＝診療報酬を上げることを訴える取り組み（政治への働きかけ）

自分の職場を守る活動へのご協力をどうか宜しくお願いします！

鹿児島中央看護専門学校 今村 節子顧問 第49回フローレンス・ナイチンゲール記章 受章



鹿児島中央看護専門学校の今村 節子顧問(第3代校長、現 公益財団法人慈愛会 評議員)が、国際赤十字委員会の「第49回フローレンス・ナイチンゲール記章」受章者に選ばれました。近代看護教育の牽引者として看護教育の質の向上に貢献した活動や、私財を投じて設立した「公益社団法人 教育・ヘルスケア振興節英会」による看護師のキャリア形成支援、および地域住民の健康増進を目指す活動における功績が認められました。

今回は22の国と地域から37人、このうち日本からは3人が受章しました。1920年の第1回授与からの受賞者総数は1,580人、うち日本からの受賞者は115人、鹿児島県在住者では今村顧問が3人目となります。

2023年7月27日に東京で授与式があり、代理として、長男の今村英仁慈愛会理事長が、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下より記章を授与されました。

功績の取りまとめに尽力した中重敬子 慈愛会理事長室顧問に、今回の経緯や授与式への参加を通して感じたことを寄稿いただきました。

節子先生への感謝の気持ちを込めて

公益財団法人慈愛会 理事長室 顧問 中重 敬子

はじめに、この度節子先生が受章されたフローレンス・ナイチンゲール記章は、国際赤十字委員会(スイス・ジュネーブ)から看護師に与えられる世界最高の名誉あるメダルであり、とてつもなく素晴らしいことだということを皆様にご理解いただき、鹿児島県の誇りであると思っておいただきたく、受章の経緯と授与式での感動を以下にお伝え致します。

この受章が決まった時、節子先生と最初にお逢いしたことを思い出しました。私は、約10年前に公的病院定年後の第2の人生を、慈愛会に迎えていただきました。

統括看護部長という重責を感じていた私に、「慈愛会看護部をお願いしますね。あなたが感じたことを進めればいいのです」と温かくやさしく迎えていただきました。私は、正直その頃、節子先生の偉大さは理解しておりませんでしたので、率直に(不躰だったかもしれませんが)慈愛会看護部の課題を節子先生に提案しておりました。それでも私の考えをよく聴いて下さり、賛同し後押ししてくださいました。作成した資料をお持ちすると、隅から隅までちゃんと見て下さり、分からないところは、「このことはどう理解すればいいのですか?わかるように説明してくださいませんか」と何故そうなのか、ちゃんと説明できなければ、資料として成立しないのでは、とやんわりと助言されていました。

看護部の行事を報告するために、節子先生の執務室を不定期に訪問しておりましたので、節子先生と談話するたびに、節子先生の看護師として貫かれてこられたことと、人生の大先輩としての魅力を深めて参りました。節子先生が、歩んでこられた看護師としての道や気品あるご対応やお言葉を、知れば知るほど、聞けば聞くほど、節子先生という方をもっと知っておかなければと思うようになり、少し遅かったのですが、節子先生の軌跡をまとめていたところ、看護協会からナイチンゲール記章受章候補者に推薦したいと打診があり、まさにこの資料が推薦に間にあったのです。

日本赤十字社から、授与式が7月27日に開催されること、受章者の関係者20名が招待されることなどの通知があり、約2か月間、節子先生の軌跡の冊子を作成し、準備を進めました。

授与式では、節子先生はご高齢のため今村英仁慈愛会理事長が代

理で出席となりましたが、そのこともまた、「偉大なる母親の表彰を代理で受けるご子息」というシーンが、心に刺さり、言葉にならない感動が起き、涙がとまりませんでした。

授与式で終わるのではなく、恐らくその余韻をもっと時

間をかけて味わいたいという想いから、授与式後、別に「節子先生の受章の喜びを語る会」を設けました。授与式会場の東京プリンスホテルの1階のマロニエという中華料理店で夕食を兼ねての会合でした。ご参加者は、聖路加女子専門学校や東京大学医学部衛生看護科時代の同僚や後輩の方々、日本看護協会前会長、鹿児島県看護協会前会長、現会長、節子先生のご親戚の方、慈愛会の職員の方々と、まるでそこに節子先生がいらっしゃるかのように、心から語り合いました。これがまさしく「盛大」ということだと思いました。

独身時代の節子先生、聖路加卒業後の教員時代の教え子(92歳の方)が語る魅力ある節子先生、結婚を決めようとしている節子先生、厳しく優しく指導していた節子先生等々、皆様の節子先生エピソードは、時間の流れを忘れ、心から節子先生に魅了された時間で終わりました。

98歳という年齢で、まだまだ、社会のために、後輩のためにできることを貫かれている節子先生を改めて尊敬し、また、私自身も看護師としてできることは何かと問うことができ、とても貴重で感動の連続の体験をさせていただきました。節子先生に心から感謝しております。

今後、まだまだ色んな方からエピソードを頂き「節子物語」としてまとめてみたいと思っております。

最後に、節子先生が提案した「人生の感性を磨き、感動のドラマがあり、成功に**歓喜**があり、日々に**感謝**があり、人間を**完成**へと誘う」という医療職としての5Kを皆様と共に大切にしていきたいと思っております。



皇后陛下が今村理事長へ記章を手渡されました
(写真提供:日本赤十字社)



フローレンス・ナイチンゲール記章



国際赤十字委員会(ICRC)からの章記



▲授与式会場にて、鹿児島県看護協会会長(右から3人目)・前会長(同6人目)と慈愛会の参加者

記章を着けて笑顔の今村顧問を祝福する今村理事長と孫の今村英香さん



今村節子顧問ゆかりの方々として、鹿児島中央看護専門学校第5代校長の富安恵子先生（現 公益財団法人慈愛会 評議員）と、教え子であり今回の授与式に参加した今村総合病院 垣添有佳看護師にも寄稿いただきました。

「看護の神様」の教えが受け継がれることを願って

鹿児島中央看護専門学校 前校長 富安 恵子

今村節子先生のフローレンス・ナイチンゲール記章の受章を心よりお慶び申し上げます。

私は慈愛会入職時、当時理事長だった今村源一郎先生から「うちには看護の神様と言われている長男の嫁で節子という人がいるから、あなたも彼女から沢山学んで、慈愛会のために頑張ってもらいたい」と言われました。

当時、教育の経験も無く、出身の看護学校も他県の私は県内での人脈も全く無かったのですが、会議や研修の場で節子先生のいらっしゃる看護学校の教員だと分かったと、皆さんが一様に親しみをもって、色々と教えて下さり、看護界における節子先生の存在の大きさを知りました。

先生が鹿児島中央看護専門学校の校長になられてからは、これからの看護について広い視野と確かな知見で動向を見ながら考えることの大切さを教えて頂きました。又職員旅行や学会等にも同行され、学校行事では学生と一緒にドッジボールに参加して楽しく交流されることもありました。

先生からは学校の役割として、学生の教育だけではなく現場の看護部と連携し、共に慈愛会の看護の質を高めていくことが使命だと言われ、常にそのことを念頭に活動してきたことが今に繋がっていると自負しています。これからも先生の教えが慈愛会の看護の質向上のために、看護部を通して受け継がれていくことを願っています。



鹿児島中央看護専門学校校長時代の節子先生（右から2人目）。山口県での教育学会の翌日、瑠璃光寺の五重塔の前にて。右から4人目が筆者

教え子としての誇りを胸に邁進したい

今村総合病院 看護師 垣添 有佳

第49回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式は国歌演奏に始まり、赤十字病院の看護学生によるキャンドルサービスなど厳かに執り行われ、その雰囲気は、28年前に看護師を目指した時の戴帽式を思い出し懐かしかったです。日本赤十字社名誉総裁である皇后雅子様による記章授与で中央前方3列目の席から拝見できことは光栄の至りでした。

「悦びを語る会」では、今村英仁理事長を囲んでの重鎮メンバーとの会食の中、節子先生との学生時代の思い出を語り合い、会食を楽しむことが出来ました。看護師のロールモデルであり近代的な看護教育の確立に尽力された節子先生の教え子の一人であることを誇らしく感じた一日でした。

これまでにない、貴重且つ素晴らしい経験の機会を頂いたことに心から感謝しています。「医療の原点は慈愛にあり」をスローガンに、慈愛会のひとりとして自分に与えられた使命をしっかりと自覚し、日々自己研鑽を積みながら看護師として新たな気持ちで邁進していきたいと思います。



授与式会場にて。（右から）今村総合病院吉松美恵子看護師、筆者、今村英仁理事長、久徳美鈴鹿児島中央看護専門学校副校長



授与式後に開催された「今村節子先生の受章の悦びを語る会」での記念撮影

第3回慈愛会学会学術集会（2023年7月1日開催）における「第49回フローレンス・ナイチンゲール記章 受章記念『今村節子先生のご功績』」（発表者：中重敬子 慈愛会理事長室顧問）の収録内容を、慈愛会職員向けに限定公開します（2023年10月31日まで）。

受章理由となった、日本の看護教育草創期における教育体制の構築にかかる功績をはじめ、看護学生への奨学金事業や公衆衛生学的調査研究に対する助成など近年の活動について、詳しくご紹介する内容です。ぜひご覧ください。

（URL省略）

第3回 慈愛会学会学術集会

「多職種協働の文化醸成」

「医療の質向上」を実感できた学術集会

第3回慈愛会学会学術集会 大会長 野村 秀洋

介護老人保健施設愛と結の街 施設長
兼 いづろ今村病院名誉院長



令和3年から開催された慈愛会学会学術集会も今年で3回目を迎えました。さまざまな施設の皆さんが、それぞれの専門性を活かして研究成果や取り組みを発表し、慈愛会学会設立の目的である「多職種が専門性を高め相互の学習の機会をつくり多職種協働の文化の醸成と医療の質向上を図ること」に向け確実に前進していることを実感します。

これまで2回の学術集会のすばらしい成功を受け、今回は、慈愛会第3次マスタープランのテーマ「進化・深化」の5つの柱の1つである「**地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築**」をテーマとして選びました。超少子・超高齢社会の到来における人生100歳時代、2025年問題、2040年問題を見据え、地域と共に歩む慈愛会の更なる発展を目指していこうという意味を込めました。

このテーマのもと、今大会も慈愛会の多くの病院施設から専門性の高い充実した69演題の発表を頂きました。それぞれの発表と討論が未来の慈愛会の礎となればと祈念しております。

第1回、第2回ともコロナ禍の開催ながらも、学会運営委員会をはじめ関わった多くの職員の努力により感染対策を充分行った上で充実した発表が行われました。令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から5類感染症へと変更されて、世の中は法律に基づき行政がさまざまな要請・関与をしていく仕組みから個人の選択を尊重し自主的な取り組みをベースとした対応に変わっていますが、医療、介護、教育機関である慈愛会として、今まで同様に感染対策を充分に行い今回も充実した学術集会が行われたことを大変嬉しく思います。

発表者・参加者の皆さん、運営に関わった皆さん、ありがとうございました。



今村英仁理事長の開会挨拶



口演発表の様子



特別講演 奥健一郎先生



メイン会場 鹿児島県市町村自治会館ホール



パネルディスカッション コーディネーター



木佐貫涼子運営委員長の閉会挨拶



ポスター発表会場

審査結果報告

第3回慈愛会学会学術集会の入賞21演題を決定し、表彰式を2023年7月24日(月)にかごしまオハナビル大会議室で開催しました。最優秀ほか各賞に加え、今回、鹿児島中央看護専門学校 今村節子顧問の第49回フローレンス・ナイチンゲール記章受章を記念して、看護師を対象とする「今村節子賞」を新設しました。表彰式には受賞者のうち14名(会場10名、リモート4名)が出席し、今村英仁理事長より表彰状と褒賞金が授与されました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

慈愛会学会運営委員会

最優秀賞

口演

新人看護師成長パス改良に関する報告

今村総合病院 看護師 平川 あゆみ



この度は、最優秀賞という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。このような賞をいただけたのも、日々新人教育を行う、教育担当部長をはじめ、教育担当副部長、教育委員会メンバーなどお力添えをくださった皆様のおかげだと思っております。

院内教育に入職後3年目から携わり、新人看護師の育成は特に、注意深く介入し、システムの構築を行ってきました。新人看護師成長パスはその1つになります。看護することの楽しさを実感し、この病院で看護を行って良かったと思ってもらえるように今後も支援を行い、精進してまいります。

ポスター

働き方改革に対する取り組みの実際と課題 第2報 ～副看護師長の達成感・ やりがい感につなげるための支援～

慈愛会看護部長会 奄美病院看護部長 福長 由美



慈愛会看護部長会では、令和3年度から働き方改革について取り組んでおり今回第2報として発表しました。この研究で最優秀ポスター賞を頂き、看護部長会としてとても嬉しく思います。日頃から看護実践のモデルとなり、働き方改革に取り組んで下さっている副看護部長さんをはじめ、スタッフの皆さま方、そして慈愛会学会運営委員会の皆さまに心より感謝申し上げます。

今後も看護職が、安心して働き続けられる職場づくりに継続的に取り組んで参りたいと思います。

優秀賞

口演

転院時処方日数調整による病院負担軽減効果について

今村総合病院 薬剤師 西元寺 慧一

当施設における要受診判定者の未受診の理由

いづろ今村病院 保健師 水口 理沙

指導者と協働で取り組むプロセスレコード検討会が指導者の指導観に与える影響

鹿児島中央看護専門学校 専任教員 兼石 彰

ポスター

回復期における脳卒中重度片麻痺患者に対する自宅退院に向けた作業療法 ～「家に帰りたい」を実現するために～

今村総合病院 作業療法士 濱田 大輔

A病院女性看護師の月経前症候群(PMS)のセルフケアと業務への影響の比較 ～リーフレットによるセルフケアの促進(第一報)～

今村総合病院 看護師 八木 笑奈

発熱外来における未取金へのアプローチ

いづろ今村病院 事務職員 赤尾 美咲

知的障害のある方への就労支援 ～できることに着目したオーダーメイドの支援で就職に結びついた一例～

就労支援センターステップ 作業療法士 内村 ちひろ

若手看護師の職務満足度と職業継続意志及び離職に対する関連要因の検討

法人事業本部看護部支援室 看護師 竹迫 智子

特別賞

ポスター

通所リハビリテーションにおける生産性向上の取り組み ～フロア業務と送迎の検討～

介護老人保健施設愛と結の街 作業療法士 村井 真由美

奨励賞

口演

当院におけるロボット支援下直腸切除術導入の経験:助手の立場から

今村総合病院 医師 保坂 優斗

超少子・超高齢化社会の到来を見据えた採用広報の試み

今村総合病院 言語聴覚士 鮫島 悠子

鏡視下腱板修復術後における術後1年までの他動肩関節可動域の推移について

今村総合病院 理学療法士 岡 弥津希

当院ICUにおける人工呼吸器患者に対する早期リハビリテーションの現状 ～質問紙調査により見えてきた課題～

今村総合病院 看護師 小窪 あゆみ

慈愛の保育の推進 ～3歳児の保育実践を通して～

社会福祉法人慈愛会 きずな保育園 保育士 徳田 弥生

ポスター

コミュニケーションツールの作成とその成果について ～ウィズコロナ時代の新たな取り組み～

今村総合病院 事務職員 大迫 真由美

厨房の衛生環境の改善 ～厨房のメンテナンス作業の充実～

谷山病院 調理師 中原 圭祐

医療接遇を学び安心・安全な医療環境へ ～病棟の組織風土の改善につなげる～

奄美病院 看護師 野田 ナナミ

対象の理解できる介入方法を模索して

徳之島病院 作業療法士 地村 尚人

今村節子賞

口演

院内死亡例から読み解く

～Medical Emergency Teamの活動効果～

今村総合病院 看護師 平川 あゆみ



リモート参加者を含めて記念撮影

〈次期大会長あいさつ〉

次期学術集會も多数の参加を期待

第4回慈愛会学会学術集會 大会長 常盤 光弘

今村総合病院 院長
兼 急性期病院統括院長



第3回慈愛会学会学術集會が盛会のうちに無事終了しました。大会長の野村先生、運営委員会の木佐貫涼子委員長、ありがとうございました。

今大会に参加した率直な印象を述べますと、非常に疲れました。しかしそれは、とても心地のいい疲れです。第1回から発表内容が大いにブラッシュアップされ充実してきました。専門的な内容が増え、私どもの心に訴えかけてくるような専門職としての熱い思い、慈愛会に対する思い、患者さんご家族に対する思い、地域に対する思いが、ひしひしと伝わってきました。受け止めきれないほどの熱意を浴び、心地よい疲れを感じた次第です。

最初の講演、今村節子先生のご功績について、特に「看護の5K」の言葉が心に残った方が多いのではないのでしょうか。医療人だけでなく人間として非常に大切な考え方だと思います。

パネルディスカッションでは、地域医療、在宅医療の課題、展望についてお話しいただき、パネリストの皆さんの熱い思いが伝わってきました。討議の時間が短かったのが反省点です。時間があればもっと活発な討議ができたかもしれません。この反省を次回に活かしたいと思います。

昼食時間に放映しました動画3本、とても素晴らしい出来でした。今後慈愛会でこのような情報発信、情報共有がどんどんできるようになればと思います。ご協力をよろしくお願いします。

特別講演では、奥健一郎先生に慈愛会フィロソフィの意義を非常に分かりやすく説明していただき、感銘を受けました。講演の中で教えて頂いた「寝る前に、今日あったいいこと、ためになったことを思い浮かべながら眠りにつくこと」をこれから実践したいと思います。皆さんも是非そうしてみてください。

来年の第4回大会は、慈愛会の未来を見据えるようなテーマを掲げ、皆さんのご協力をいただきながら一年間かけて準備をまいります。今大会以上の多くの出席と発表を期待しています。宜しく申し上げます。



〈動画限定公開のお知らせ〉

第3回慈愛会学会学術集會において、今村総合病院における

- ①医療DX
- ②医師の働き方改革
- ③広報の取り組みについて、紹介動画を放映させていただきました。

動画制作にあたり、職種の垣根を超え多くの方のご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

2023年10月31日まで、慈愛会職員向けに限定公開します。多くの職員の皆様にご視聴いただき、今後の慈愛会の広報活動や職員間の交流、情報共有、多職種連携の推進に活かしていただけれますと幸いです。

今村総合病院 事務長補佐 鈴木 大輔



URL省略



膠原病・リウマチ内科 新設にあたって

今村総合病院 膠原病・リウマチ内科 部長 伊藤 加菜絵

経緯

この度、今村総合病院において膠原病・リウマチ内科を新設させていただきました。診療を主に担当している伊藤よりご挨拶申し上げます。私は、今村病院で初期研修後、今村病院分院（現在の今村総合病院）救急・総合内科で学ばせていただきました。救急・総合内科では、不明熱の患者様を診療する際、「膠原病」を疑うことが少なくありません。しかし稀な疾患ゆえに診断や治療に難渋し、十分な診療ができていないと感じていました。そこで専門的に勉強してみようと決心し、東京都や鹿児島赤十字病院で研修を積み重ねてきました。専門医取得後、2019年から今村総合病院救急・総合内科に戻って診療を開始し、現在に至っています。看護スタッフやソーシャルワーカー、薬剤師、リハビリスタッフなど、多くの職種にご協力いただきながら、少しずつリウマチ・膠原病診療を形作ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

膠原病とは

「膠原病」というと馴染みがないと思いますが、主に自己免疫の異常により、皮膚や関節などの結合組織を中心として、全身の臓器に炎症や機能障害を起こす疾患群を指します。代表疾患は関節リウマチですが、当院では他にも若年女性に多い全身性エリテマトーデスや、全身性強皮症、ベーチェット病などのいわゆる「難病」とされる疾患や、皮膚科と連携して乾癬性関節炎の患者様を多く診療しています。また、不明熱として総合内科を紹介・受診され、巨細胞性動脈炎やANCA関連血管炎などの血管炎症候群と診断される方が多いことも当院の特色と言えます。

治療法

これまでの膠原病診療では、ステロイドに依存した治療を行っていた時代もありますが、近年では生物学的製剤を中心とした新薬の登場により、生命予後の改善だけでなく、ステロイド使用量を最小限にすることによる合併症の減少、さらにはQOLを改善することが当たり前となってきました。当院では生物学的製剤の全種類が使用可能となっており、様々な患者様に対応できるのではないかと考えています。

当院の強み

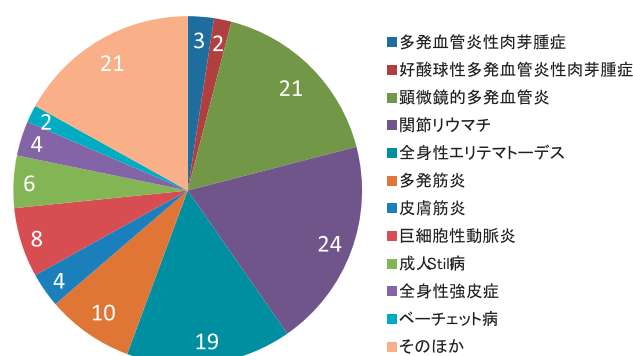
疾患の活動性悪化や感染症などで急な状態変化が起こる場合もあります。そういったときに救急外来で対応してもらえること、必要ならば入院治療が可能なのは当院の強みです。内科救急に卓越した総合内科のバックアップを得て、疾患の治療や合併症、感染症への対応が可能です。また、膠原病は全身の臓器に影響するため、各専門科との連携が非常に重要です。そうした面でも、院内で各専門科とスムーズに連携できることは、診療する上で非常に心強い環境です。

鹿児島県内で膠原病・リウマチ専門医が常勤している総合病院は少数であるため、地域の皆様のお役に立てるのではないかと考えています。現在は専門医1名のみではありますが、膠原病に興味を持ち研修してくれている後輩もおりますので、近い将来さらに充実した診療体制となる予定です。

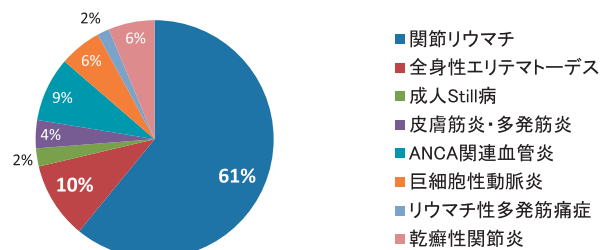
最後に

「膠原病」は希少疾患ゆえに、不安を抱える患者様が多いと思います。そんな不安に寄り添いながら、安心かつ高度な医療を提供するため、一心精進していく所存です。まだまだ走り始めたばかりですが、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

2022年度の膠原病患者入院内訳（計124名）



2022年度外来患者内訳（患者実数311名）



主な疾患	患者人数
関節リウマチ	223
全身性エリテマトーデス	38
ANCA関連血管炎	32
巨細胞性動脈炎	21
炎症性筋疾患	14
乾癬性関節炎	23

その他IgG4関連疾患、リウマチ性多発筋痛症、成人Still病、サルコイドシスなど

あなたの“えがお”がみたいから、 あなたらしい暮らしを応援します。

訪問看護ステーション「わたりどり」 所長 吉元 初美

徳之島病院の訪問看護が、訪問看護ステーション「わたりどり」に新しく生まれ変わりました。「わたりどり」は上記のスローガンに加え、「**長年住み慣れた地域や我が家で過ごしたい**」と願う方々が安心して自分らしく生活できるように「**その人の心に届く慈愛の看護**」を目標にスタートいたしました。

事業所名の由来ですが、徳之島、沖永良部島、与論島の3つの島を渡り、訪問するので「わたりどり」という名前にしました。これまで訪問看護を担当していた職員がそのまま「わたりどり」スタッフとなり、顔ぶれは変わりませんが、ステーション開設に向け1年前から集められた選りすぐりの精神科看護の精鋭たちです。

病院から離れ新事業所となりましたが、今後も、精神疾患を抱えている方たちが地域で安心して自分らしい生活ができるように、利用者さんに寄り添い、一緒に歩いていきたいと思います。



吉元所長



奄 美 新 聞

【第3種郵便物認可】

訪問看護ステーション 「わたりどり」開設

徳之島病院 精神科在宅患者の支援充実



奄美新聞2023年6月29日付

徳之島病院の訪問看護が、訪問看護ステーション「わたりどり」に新しく生まれ変わりました。「わたりどり」は上記のスローガンに加え、「**長年住み慣れた地域や我が家で過ごしたい**」と願う方々が安心して自分らしく生活できるように「**その人の心に届く慈愛の看護**」を目標にスタートいたしました。

事業所名の由来ですが、徳之島、沖永良部島、与論島の3つの島を渡り、訪問するので「わたりどり」という名前にしました。これまで訪問看護を担当していた職員がそのまま「わたりどり」スタッフとなり、顔ぶれは変わりませんが、ステーション開設に向け1年前から集められた選りすぐりの精神科看護の精鋭たちです。

病院から離れ新事業所となりましたが、今後も、精神疾患を抱えている方たちが地域で安心して自分らしい生活ができるように、利用者さんに寄り添い、一緒に歩いていきたいと思います。

永年勤続表彰

(省略)

教育開発センターより

第4回 心に届く慈愛の物語 エッセイ集刊行

2023年5月20日(土)に開催された「第4回 心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」で発表された最優秀賞、優秀賞をはじめ入選作品15編をおさめたエッセイ集が完成しました。全施設に配布されます。ぜひ手に取ってご覧ください。



故・林さんに理事長賞伝達 — 奄美病院 —

「第4回心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」の表彰式で、奄美病院の林亜紀子精神保健福祉士(故人)の「紡ぎ紡がれていく想い」が特別賞に当たる理事長賞を受賞しました。後日、旦那様が来院され、表彰状を伝達いたしました。職員一同、林さんのご冥福を心よりお祈りします。

自らの闘病体験を振り返った作品は、病名宣告時の心理状況から辛い入院治療、念願の復職までの道のりや心のうちがあらまに

つづられています。支えてくれた周囲への感謝と希望を持って今年1月に医療福祉相談室へ戻ってきてくれた林さんでしたが、その後、残念ながら帰らぬ人となりました。

私たち奄美病院職員は、彼女がメッセージに紡いでくれた仕事への誇りと志を受け継ぎ、1日1日を大事に生き抜きたいと思っています。患者さんからも慕われたあの柔らかな笑顔とおっとりした話し方を胸に留めながら。

医療福祉相談室一同



伝達の際の様子

紡ぎ紡がれていく想い
—— これまで出会った全ての皆さまへ、ありがとう ——
奄美病院 精神保健福祉士 林 亜紀子

平成十八年、奄美病院へ入職。精神保健福祉士として毎日忙しいながら、楽しく仕事をしてきた。家庭を持ってからも仕事のやりがいには変わらなかった。
令和四年春頃から体調を崩し、自宅療養に。そして八月、長引く体調不良から、検査入院。結果、すい臓がんで余命半年、約三カ月間の入院が必要と宣告された。復職へ向けて相談をしていた矢先だった。
誰にも相談できず、冷静に受け入れてこれからのことを考えなければと思う一方、置かれた状況が夢か現実かわからなくなった。この頃の記憶は、今でも夢と現実が入り混じる。精神的に混乱した私が、落ち着いてこれからのことを考えられるようになったのは、入院中支えてくれた家族、私の気持ちに寄り添って意思を尊重してくれた主治医や看護師さんたち、病気を知っても復職へ向けて一緒に考えてくれる職場の仲間が存在があったから。
入院中は、「元氣になったらビックニックにいきたい。皆で写真をとりたい」と、やりたいことがいっぱい頭に思い浮かんだ。治療は辛く、心も体もボロボロに感じる日々が続いたが、「点滴を持続できている自分、万歳。なんだかんだ私頑張っている」と思えるようになって少し楽になった。
退院が近づくと、家で家事をする自信がなくなってきた。今後についてのカンファレンスの時には、パニックになったりどうしようとかドキドキ。今まで、支援者の立場で参加していたのに、当事者として出席すると、こんなにも不安なのか...と。
令和四年十一月、約三カ月ぶりに退院。自分の筋力低下ぶりにびっくりしたが、ワクワクが胸いっぱい溢れていた。次の目標は、仕事へ復帰すること。
初体験だから治る過程もわからないし、不安でいっぱい。でも、また働きたいって思えるのは、支えてくれた仲間のおかげ。専門職としてこの経験を役立てたい。迷惑かけられるけど、できることからゆっくり始めたい。
令和五年一月、たくさんの仲間に囲まれて奄美病院医療福祉相談室へ復職。

新入職員育成の Hop・Step・Jump 研修

慈愛会の新入職員研修は2022年度から、多職種合同で「Hop」「Step」「Jump」の年3回全員参加の研修として開催されています。多職種交流で連帯感を強め、同期入職者の絆を深めること、自己の思いを表出し業務継続の意欲を高めること、更には慈愛会内の連携推進を図る機会となるよう企画しています。

今年も入職式直後のオリエンテーションI hop研修に続き、5月20日にオリエンテーションII step研修を開催しました。

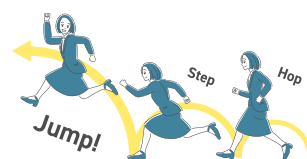
今村英仁理事長の講話、看護部のキャリア開発ラダーレベルV実践報告を聴講した後、グループワークを行いました。入職して1カ月を経過した今思うことを話し合い、「不安だったのは自分だけではない」と想いを共有することができたようです。

研修の最後には、半年後の自分自身へ宛てた手紙を書いていたできました。

今回の研修で感じた想いを胸に、これからも同期の仲間や先輩方と一緒に仕事に励んで頂ければと思います。

次回は、12月に新入職員オリエンテーションIII jump研修を計画しています。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

教育開発センター長 木佐貫 涼子



コロナ禍で中止を余儀なくされていた行事が、今年相次ぎ再開しました。ふれあい看護体験、職場体験の様子をまとめてお伝えします♪

ふれあい看護体験 谷山病院・奄美病院・今村総合病院

今回、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことでやっと開催することができた「ふれあい看護体験」。

谷山病院では、看護師の仕事に憧れや夢を持つ小・中・高校生17人が参加し、既に看護師への道を歩みだしている人もいました。体験後には「薬を使わない治療や、人の心と向き合う仕事を通して、自身が架け橋になり患者の笑顔を見ることができる。素敵でやりがいのある仕事だと思った」「一次救命処置では、心臓マッサージを交代しながらでも実施し続けることの大切さを学んだ」という感想を頂きました。皆さんの目の輝きが印象深く、夢へのお手伝いができたことを嬉しく思う一日となりました。

谷山病院 A2病棟看護師長 福島 愛



血圧測定



N95マスク装着



手指消毒



心臓マッサージ

奄美病院での開催風景



今村総合病院での開催風景



徳之島病院

徳之島病院では、5月に亀津中学校の職場体験学習を行いました。受け入れた3人の生徒さんは「将来医療関係の仕事に就きたい」との思いがあり、3日間で当院の全職種を体験していただきました。AEDや心臓マッサージの実技では緊張した様子でしたが、デイケアではご利用者と一緒にかかるかん作りを体験し「孫みたいに接してもらって嬉しかった」と笑顔がこぼれました。

「初めて知る職種も実際に体験してみて興味を持った」と話してくれた中学生たち。いつか医療従事者となり「仕事が楽しい」と思える姿を楽しみにしています。

徳之島病院 看護師 白山 あいみ

中学生の職場体験

今村総合病院

今村総合病院は5月に2校の職場体験を受け入れました。このうち鴨池中学校は、当院と包括連携協定を締結した鴨池校区コミュニティ協議会からの依頼により、今回初めて受け入れが実現しました。「将来医療機関で働きたい」という3人の生徒さんに、2日間で様々な職種の見学・体験をしていただきました。各部署で質問が多く飛び交い、私たち職員も充実した時間を過ごすことができました。今回の体験が将来の夢を見つけるきっかけになってくれれば嬉しく思います。

今村総合病院 Professional編集委員 広報室 栗ヶ窪 みゆき



事務部体験



かるかん作り



産科病棟体験



臨床検査体験

予告

いづろ今村病院

第11回健康まつり

2023年10月14日(土)

14:00~16:00(予定)

健康チェックコーナー、
相談コーナーetc.

4年ぶりの開催に向けて内容検討中!



今村総合病院

4年ぶりの開催!

第2回かもいけ健康まつり

つながる地域、つなげる安心

2023年10月21日(土)

13:30~16:00(16時から閉会式)

- ①相談ブース ②検査ブース
- ③体験型ブース ④ミニ講演・コンサート
- ⑤飲食ブース



ポップコーン
わたあめ
無料配布



「おかえりなさい18期生」 1年目サポートキャンパス開催

鹿児島中央看護専門学校



鹿児島中央看護専門学校では2023年7月15日に、看護師となって1年目の卒業生を対象に「1年目サポートキャンパス」を開催しました。テーマは「仲間や先生とたくさん語り合おう。そして明日からまた前進しよう」です。

久しぶりの学び舎で笑い声あり、涙する場面あり。慣れない環境の中で悩んだり失敗したりしながらも、患者様との関わりで看護師としての責任の重さややりがいを感じながらの4カ月であったことと思います。

最後に「これから頑張ろうと思うこと」を色画用紙に書き一人ずつ発表しました。「仕事を楽しむ」「元気に毎日出勤」「めげずに頑張る」等、前向きに頑張ろうとしているようでした。今回のこの時間が卒業生にとってリフレッシュできる時間になれば良いと思いました。学校ではこれからも卒業生のサポートを続け、いつでも帰れる場所づくりを大切にしていきたいと思っています。



親睦会で心身ともにリフレッシュ

谷山病院

谷山病院では2023年6月23日に歓迎親睦会を開催しました。

新型コロナウイルスにより、医療現場は怒涛の日々が続き、その現場を支えたスタッフへの労いと今年度の新入職員の歓迎を兼ねて開催に至りました。

日頃あまり接する機会のない他部署のスタッフとチームを組んで競技をすることで、普段は見ることが出来ないプライベートなスタッフの素顔を垣間見ることが出来ました。チームカラーに合わせた紙の花を手や髪に飾って、チーム一丸となって走って笑って応援して、師長、新入職員関係なく親睦を深めることが出来たと思います。

これからもスタッフ自身の心と身体の健康を維持し、リフレッシュ出来る機会をつくっていききたいと思います。

谷山病院 ライフワークバランス委員会



夏まつりを救護班としてサポート

今村総合病院

慈愛会と包括連携協定を結んでいる鹿児島市鴨池校区コミュニティ協議会が中心となって開催した「第17回鴨池校区夏まつり」(2023年8月5日、真砂本町公園)に、今村総合病院の中谷明実看護部長と福留亮総務課長が、救護班として参加しました。常盤光弘院長、有島尚光事務長、鈴木大輔事務長補佐も来場し、病院地元の皆さんと親睦を深めました。

まつりは子供からお年寄りまで大勢の人であふれ、鴨池校区のパワーを感じさせる賑わいぶりでした。



糖尿病カンバセーション・マップ™ ファシリテーター

慈愛会クリニック 管理栄養士 加藤 実穂 さん



糖尿病カンバセーション・マップ™(以下カンバセーション・マップ)とは、糖尿病患者がグループで話し合い、境遇を共にする患者の知識や体験から糖尿病について互いに学び合う、新しい糖尿病の学習教材です。

私とカンバセーション・マップの出会いは、平成22年に当院の元糖尿病内科部長河野泰子先生(日本糖尿病学会功労学術評議員)からの推薦と、院長今村尚子先生からお勧めをいただき、日本糖尿病協会主催の研修会に参加してファシリテーターの資格を取得させていただいたことに始まります。そして平成23年度よりカンバセーション・マップを用いた外来での糖尿病療養教育を当院でスタートさせました。

カンバセーション・マップを用いることで、従来の講義形式の糖尿病教室とは異なり、患者同士で糖尿病について話し合い、自分で考えることで糖尿病療養に前向きに取り組める利点があります。

参加患者さんから「普段は糖尿病のことを話せないけど、ここでは病気の人と気持ちをわかりあえるから貴重な機会なの」「何はさておき、マップの参加が最優先よ」とのお声をいただくたびに、開催してよかったと嬉しく思います。

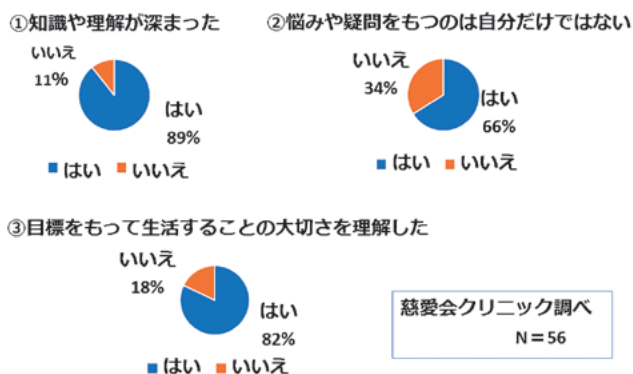
私自身、ファシリテーターとしての技量はまだまだ未熟ですが、看護師さんも同席して進行をサポートしてくれるので心強いです。また、事務員さんも参加患者さん達に優しい言葉かけやお茶の手配等をしてくれ、クリニックならではのアットホームな雰囲気で開催できていると思います。

現在は、新型コロナ感染防止のため開催を見合わせていますが、状況が整い次第再開の予定です。今後も患者さんが前向きな気持ちで糖尿病療養に取り組めるよう、努めて参る所存です。

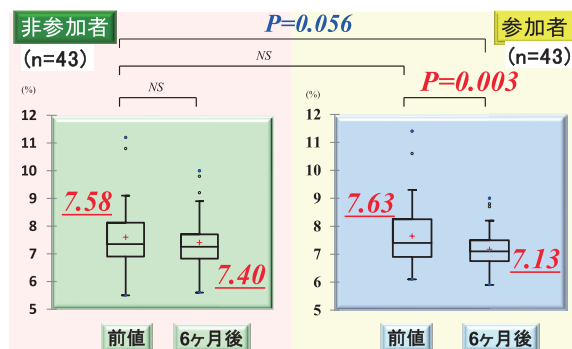


カンバセーションを行う様子

糖尿病カンバセーション・マップ™ 参加者アンケート結果



カンバセーション・マップ参加者の HbA_{1c} の推移



バージョンアッププロジェクト始動

35項目からなる「慈愛会フィロソフィ ver.1」の用語見直しや新項目の追加を検討し職員への周知・浸透を図ることを目的として、「慈愛会フィロソフィバージョンアッププロジェクト」が本年度スタートしました。

プロジェクト委員長の今村英仁理事長、副委員長の帆北修一理事長補佐 兼 今村総合病院 名誉院長の寄稿文、および、プロジェクトメンバー一覧を掲載します。



慈愛会フィロソフィの見直しについて

プロジェクト委員長 今村 英仁

慈愛会創設80周年を記念して「慈愛会フィロソフィ」35項目を作成してもらいました。元となっているのは、理事長が平成6年から参加した中小企業経営者のための経営塾「盛和塾」で使われていた「京セラフィロソフィ」です。盛和塾は、鹿児島県出身で晩年、経営の神様とも称された稲盛和夫氏が設立した塾で、稲盛氏の死去に合わせて解散しました。稲盛氏の薫陶を直に受けた理事長が「あすなろ精神」と「亀の一步」の慈愛会マインドを持つ慈愛会スタッフの心に流れる思いを「見える化」するのに使わせてもらいました。定期的な見直しは、慈愛会マインドを育み大事にしてきた先輩方の思いを我々が会得し、また、後輩に継承するためにも必須の作業です。我々は何故慈愛会で働いているのか、何のために働いているのか、この「慈愛会フィロソフィ」を通して考えていただければ幸いです。

慈愛会フィロソフィバージョンアッププロジェクト 立ち上げにあたって

プロジェクト副委員長 帆北 修一

「慈愛会フィロソフィ ver.1」は2015年8月1日発行されました。2014年4月に取り組みを開始し、27回（2014年6月～2015年7月）の検討委員会（今村英仁理事長以下19名のメンバー）で協議して35項目にまとめたものです。

2024年5月には、慈愛会は創設90周年となります。今回のバージョンアップには、18名のメンバーが中心となって取り組みます。すでに4回の会議を開催して、今後の進め方をはじめ、最終目標、各項目の検討・協議や体裁等様々な検討事項について、多くの意見をもとに協議する予定です。

フィロソフィとは、仕事にも人生そのものにも生かすことが出来る物事を成し遂げていくための「考え方」のよりどころです。慈愛会の多くの職員が心を一つにし、同じ目的に向かって進んでいくための「考え方」を、目に見える形にしてまとめたものです。不幸な状況にあっても「考え方」一つで幸せになることができます。社会環境は非常に速いスピードで変化しております。この変化の中で、慈愛会（すなわち職員の皆さん）が次のステップへ踏み出すための精神的よりどころとなるように、「ver.1」を礎としてバージョンアップしたものを皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えております。



プロジェクトメンバー

[委員長]

慈愛会	理事長	今村 英仁
-----	-----	-------

[副委員長]

慈愛会	理事長補佐 兼 今村総合病院 名誉院長	帆北 修一
-----	---------------------	-------

[委員]

いづろ今村病院	総合診療科部長	石橋 和久
いづろ今村病院	副看護師長	内大久保 恵
今村総合病院	皮膚科主任部長	米倉 健太郎
今村総合病院	理学療法士 / 主任	津曲 麻美
今村総合病院	副看護師長	酒井 亜希
谷山病院	作業療法士 / 科長代理	島崎 康子
谷山病院	看護師	葛和 麻美
奄美病院	事務職員	渡 大輝
徳之島病院	栄養士 / 副主任	作元 ゆかり
愛と結の街	介護福祉士	切田 諒
在宅支援部	作業療法士	揚村 美帆子
鹿児島中央看護専門学校	専任教員	兼石 彰
法人事業本部	総務人事部長	原 伸二
法人事業本部	経営企画室課長代理	高野 正樹
法人事業本部	総務人事課事務職員	果森 香織
法人事業本部	財務経理課事務職員	徳重 梨沙

[オブザーバー]

法人事業本部	理事長室兼経営企画室事務職員	今村 英香
--------	----------------	-------



「慈愛会フィロソフィ」の浸透にむけて【谷山病院の取り組み】

谷山病院A2病棟では、毎週月曜日の朝礼時にフィロソフィを順番制で読み上げています。みんなで読み上げることで自分の行動や考えを振り返ることができ、仕事に対して前向きになることで、頑張ることができると思います。

スタッフ一人一人がフィロソフィを共有することで、スタッフとベクトルを合わせて、良い雰囲気の仕事をする事ができていると思います。忙しい毎日ですが、感謝の気持ちを忘れずに、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

谷山病院A2病棟 看護師 葛和 麻美



「意志あれば道あり」



精神科看護では、患者さんと看護師の会話は治療のために不可欠です。しかし、多忙のためになかなか患者さんのもとへ足を運べない時があります。以前、ギャンブル依存症の患者様を受け持ちました。退院まで数週間、しかし業務は多忙という時期でしたが、何とか時間を作って患者さんのもとへ足を運び続けました。退院後に訪問看護のスタッフから「ギャンブルしないで済んでいる」と嬉しい情報を頂いたことがあります。

「忙しいけど時間を作ろう」という意志を持って取り組んだことで物事を推し進めることが出来たのではと思います。毎回は難しいですが、これからも意志を持って行動に移すことができればと思います。

谷山病院A2病棟 看護師 橋口 友哉

冊子抜粋

第9項 意志あれば道あり

切羽詰まった状況の中であっても、前向きかつ真摯な態度で物事にぶつかっていくことで、人は普段では考えられないような力を発揮することができます。

困難な状況に遭遇しても、決してそこから逃げてはいけません。「何としても」という切迫感があると、普段見過ごしていた現象にもハッと気付き、解決の糸口が見付けられるものです。

人は得てして易きに流れてしまいがちですが、前向きかつ真摯な姿勢によって、自分でも驚くような成果を生み出すことができるのです。

在宅医療

リレーエッセー

11

在宅医療はチームワークが大切

いづろ今村病院 総合外来 看護師 植木 真樹子

いづろ今村病院では、緩和ケア内科・循環器内科の訪問診療を行っています。

現在私は、総合外来の看護師として、外来業務と訪問診療同行看護師を兼務しており、毎日慌ただしく過ごしていますが、仕事はとてもやり甲斐を感じています。それは、外来から入院、退院して在宅療養と継続して関わることができるからです。また、支援内容は個別的であり、そのどれもが貴重な経験であり、看護師としても成長できるからです。

自宅で最期まで過ごしたいと希望されたAさんは、在宅で酸素吸入や胸水穿刺を行いながら、家族や訪問看護師のサポートのもと、最期は自宅で息を引き取りました。退院前カンファレンスの際、Aさんの家族が、「今日からチームですね」と言ったことを思い出します。終末期の患者様に残された時間は、本人や家族にとって大切な時間です。本人や家族がどう過ごしたいのか、その思いに寄り添い、アセスメントしながら病院と在宅のスタッフがチームとして支援する、これぞ在宅医療だと思います。

患者様や家族が、在宅で過ごす時間が「良かった」と思えるような支援ができるように自分自身もバージョンアップしながらスムーズな連携を心がけていきます。



(省略)

法人事業本部 総務人事課より

運用益アップを目指そう！ 投資教育動画シリーズ vol.4



前号で紹介した動画では、慈愛会の企業型確定拠出年金（企業型 DC）で採用されている投資信託の 2022 年度運用実績を報告しました。動画内で、5 月に追加された新商品を紹介していますので、まだ視聴していない皆さんはぜひご確認をお願いします。運用見直しの参考にいただければ幸いです。

今回追加された商品（投資信託 11 商品）

- ・投資のソムリエ＜DC年金＞リスク抑制型
- ・投資のソムリエ（ターゲットイヤー2035～2065の7種類）
- ・世の中を良くする企業ファンド（野村日本株ESG投資）
- ・One DC国内リートインデックスファンド
- ・One DC先進国リートインデックスファンド

(URL 省略)

また、2022 年度公開の動画「確定拠出年金のき・そ・ち・し・き」を、今年度バージョンアップしましたので合わせてご確認ください。

編集後記

神村学園の夏の甲子園ベスト 4 進出でテレビに釘付けになられた方も多いのではないのでしょうか。私の周囲でも決勝は甲子園に応援に行く！と盛り上がっている声が聞かれました。秋にはかごしま国体も開催されるので、今年はスポーツの秋が満喫できそうです。

さて、本誌面でも紹介されております、第 3 回慈愛会学会学術集会には当院からも多数の発表者が参加しました。

学会終了後、ポスター発表の作品は職員専用通路に掲示されており、休憩中や勤務終了後に更衣室へ向かう職員が足を止めてポスターを見ている姿をよく目にします。

より良い看護やサービスを提供するために工夫を重ねている仲間の研究成果が私自身にもよい刺激となりました。これからも、より充実した Professional をお届けできるよう、取り組んでいこうと思います。

いづろ今村病院 総務課 山名 舞子

達人
Professional

慈愛会報 [プロフェッショナル]
2023 年 8 月 Vol.32
発行：公益財団法人慈愛会
編集：Professional 編集委員会
委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室
duties-support-room@jiaikai.jp

 公益財団法人 慈愛会
<https://www.jiaikai.or.jp/>